

**【研究ノート】**  
**スウェーデンの移民統合に関する制度と現状**  
**—教育領域に焦点を当てて—**

比較教育社会学コース 長江侑紀

指導教員 額賀美紗子教授

## 1. はじめに

スウェーデンは、近年急速な多文化化を経験しており、さらに、国際的にも注目されるような移民統合政策を取っている。新型コロナウイルス感染症対策によって国際移動が停滞した 2020 年と 2021 年を除いて、スウェーデンに入国する移民は毎年 10 万人以上で、その数は持続的に増加している。さらに、人道的理念に基づき受け入れた難民・難民申請者人口は、2015 年以降、毎年 20 万人を超える。そうした大規模な移民人口の流入があるスウェーデンだが、マイノリティの権利の保障や差別禁止法の施行など、移民統合の政策や法制度に関して高い評価を受けている。例えば、移民統合政策を測定するツールとして開発された移民統合政策指数 (MIPLEX) <sup>(1)</sup> では、スウェーデンはこれまでも高い水準を示しており、さらに、最新版の 2020 年には対象国間で最高スコアを示した。特に、教育部門では、民主的教育の基盤に加え、居住地位に関係なく教育の権利を保障し、母語教育やニーズに応じた教育を提供していることから、移民統合政策として好ましい対応をしているとして評価された。

本稿では、こうしたスウェーデンの多文化化の状況に関心を持った筆者が、2021 年 9 月から 2022 年 9 月にかけてスウェーデン・ストックホルム大学に博士学生の客員研究員として滞在した際の研究内容の一部を報告する。具体的には、本研究は、スウェーデンの移民統合の一環としての教育領域に焦点を当て、移民受け入れに関する教育制度とその背景にある理念を明らかにする。第 2 章ではスウェーデンの移民受け入れと教育制度の概要を整理し、第 3 章で移民統合に関連する教育制度や実践を紹介する。最終章では、本稿のまとめをした上で、今後の研究課題を提示する。

## 2. 移民受け入れと教育の概要

本章では、中心的な議論となる教育制度や実践を扱う次章の議論の背景情報として、第 1 節でスウェーデンの移民の受け入れ状況と移民関連政策の理念と、第 2 節でスウェーデンの教育制度の概要を整理する。第 3 節では、社会統合と教育の関係についての理論を紹介する。

### 2.1 スウェーデンの移民受け入れ状況

近年ようやく日本でも一般的に議論されるようになった移民<sup>(2)</sup>・難民<sup>(3)</sup>だが、スウェーデンを含む諸外国においては長らく議論されてきた中心的な社会課題である<sup>(4)</sup>。スウェーデンは比較的人口規模が小さな国であるが、2000年代以降は外国生まれの人口が占める割合が大きい状況が続いている<sup>(5)</sup>。2020年の人口統計では、約1000万人の全人口の2割にあたる約200万人が外国生まれの移民である(Statistics Sweden 2023)<sup>(6)</sup>。顕著な人口動態があったのは、2015年である。スウェーデンは主にシリア、イラク、アフガニスタンから約163,000人の難民を受け入れた。そのうち、約7万人が18歳未満の未成年者であり、特に、アフガニスタンから来た家族など同伴者のいない子どもの数は約35,000人であった。その後、ヨーロッパ全体の国境管理の強化やスウェーデンの難民受け入れ政策の厳格化により、2016年には3万人の難民に激減したが、そのうち1万人が子どもであった(Swedish Migration Agency 2023)。

こうしてスウェーデン社会に新しく参入する人々の社会参加について考えるとき、スウェーデンが福祉国家としての政策的態度を基盤として持っているところに、文化的差異の承認を念頭に置く多文化主義的な政策が加わっているということへの考慮が重要になる。スウェーデンは言わずと知れた北欧型福祉国家の一つであり、市民権を持つ人々(国民)への高福祉・高負担によって成り立つ。ここに、新たなメンバーとしての移民のニューカマーのメンバーシップに関する問題が生まれる。さらなる葛藤は、マイノリティへの再分配の問題と、同化圧力ではない仕方で価値観の共有を行うことで生まれる(ブロックマン 2017)。

そこで、福祉国家としてのスウェーデンの移民統合政策は、「平等と多元性の妥協となった」(ブロックマン 2017: 334)とグレーテ・ブロックマンは現在に至るまでの歴史的変遷を説明する。つまり、スウェーデンは、移民を含めたマイノリティに対して、福祉国家の普遍的な財から便益を得る資格を保証する社会的市民権と異文化適応の自由選択を同時に保障することで解決を求めた(Borevi 2014)。言い換えると、福祉国家として「平等処遇の原則」の法制度・理念を持つスウェーデン社会は、マイノリティに対して権利に基づいた「例外」的な対応をすることで、言語・文化や価値観などの「共通性」の創造と「多様性」の尊重を両輪とした社会統合の課題に取り組むこととなった。さらに重要な点は、法制度はグループではなく個人の権利を重視する方針を明確にしていることである(Brochmann et al. 2012; Soininen 1999)。

## 2.2 スウェーデンの教育制度の概要

スウェーデンの教育制度の概要として、まず学校教育制度とそれを支える関連組織の関係を整理する。学校教育は教育研究省の管轄下であり、いくつかの教育研究省の外局として政府機関が制度、カリキュラム、質管理などそれぞれを担当する。本研究が主に参照するのはそのうちの学校教育庁(Skolverket)であるが、他にも、特別支援教育・学校庁(Specialpedagogiska skolmyndigheten)<sup>(7)</sup>や少数民族のサーミの教育を担当するサーミ教育委員会(Sameskolstyrelsen)<sup>(8)</sup>などもある。他方、地方分権が進むスウェーデンでは、教

育に関する財政や資源分配、具体的な施設の運営管理などは自治体が担う。

スウェーデンの学校教育は単線型教育制度である。教育研究省が管轄する学校教育には、養護と教育の役割を担う就学前学校と、大学などの高等教育前の後期中等教育も含まれるが、義務教育は、就学前段階の6歳児を対象とした就学前学級から始まり、前期中等教育までの10年間である。

## 2.3 社会統合と教育の関係についての理論

近現代において移民を受け入れてきた国では、理論と実証の往還の中で社会統合と教育の関係についての理念型が構築されている。ここでは、今後の論考のロードマップとして、ジョン・ベリーのエスニック・グループ（移民）と（受け入れ）社会の異文化適応戦略についての理論（Berry 2005）と、アレハンドロ・ポルテスとルベン・ルンバウトの「分節化された同化理論（Segmented Assimilation Theory）」（Portes and Rumbaut 2001）を紹介する。

社会心理学者のベリーは、ニューカマーがホスト社会に参入する時の異文化適応と受け入れ社会の統合戦略を図式化した（Berry 2005）（図1）。複数の人種・エスニシティが多元的に共存する北米社会が主に想定されていると考えられる。左の円はニューカマー移民を含むそれぞれのエスニック・グループの異文化適応戦略の4類型を示す。「統合」は、彼らが受け入れ社会でグループ間の関係を模索しつつ、母語・母文化を維持・継承する戦略を取る場合であり、維持・継承をしない場合は「同化」となる。一方で、彼らが受け入れ社会の他のグループと関係を持たず自らのエスニック・グループ内にとどまる場合を「分離」とし、様々な障壁によって母語・母文化の維持・継承もエスニック・コミュニティへの参加もできない場合を「周縁化」とした。

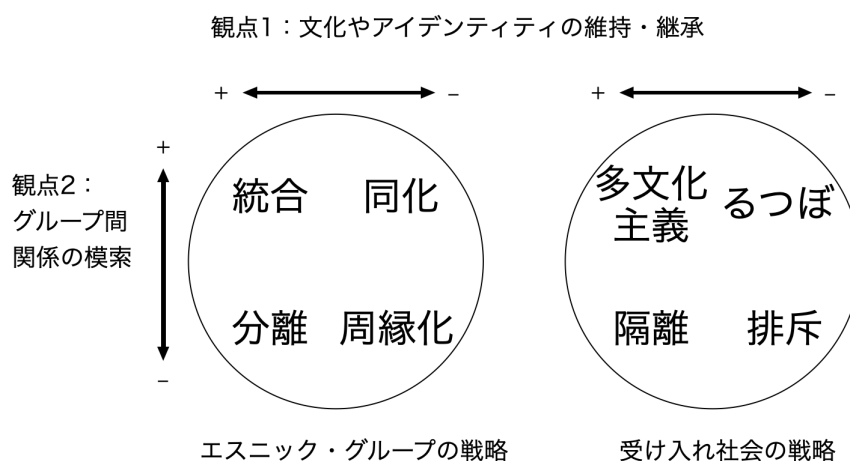


図1：エスニック・グループ（移民）と受け入れ社会の異文化適応戦略

（出典：Berry（2005, 705）Fig. 3を翻訳・修正）

この図式は、マイノリティの視点に立って考えられたものであり、マイノリティのグルー

プと個人は、どのように適応したいかを選択する自由を持っている、つまり、ドミナント・グループからの強制や権利の制約から解放されているという仮定に基づいているとベリーは明示する。ベリーの論考の中で重要なことは、民主的社会においては理想だと考えられている「統合」を達成するためには、すべてのグループ・個人が文化的差異を承認されることと、権利を保障されることの両方を社会が目指すべきだと示唆する点である。だからこそ、ベリーは、マイノリティの異文化適応戦略の横に社会側の戦略を併記した。もう一点重要なことは、グループ・個人が「統合」へ向かうためには、ホスト社会の基本的な価値観を共有することも求められているため、ホスト社会はそれを支える制度を整備する必要もあることである (Berry 2005: 705-6)。その社会的制度の中でも影響力があるものだと考えられるのが教育である (Berry and Sabatier 2010; Schachner et al. 2017)。

定住化する移民の世代を越えた統合プロセスの理論化を試みるのが、ポルテスとルンバウト (Portes and Rumbaut 2001) である。彼らの理論が、それまでの伝統的な直線的同化を想定する統合理論と異なる点は、いくつかの条件によって社会階層ごとに適応 (同化) が分節化されていくということを形式化したことである (是川 2018; 村井 2015)。例えば、親の人的資本、移民の編入様式、家族構造の背景要因が影響した上で、移民第2世代の置かれる状況や経験がその分節化につながると考える。これらの傾向を人種・エスニシティごとに検討する実証研究の知見も蓄積されており、特に、移民2世の教育達成からその傾向を検証する研究は、機会平等の普遍的な保障だけでは、教育達成やその後の階層移動において不平等な状況が生まれてしまうということを示唆する (Fischer 2010; Haller et al. 2011; Hirschman 2001)。

これらの理論は、あくまで理念型としての社会統合の理論であり、それぞれの国の状況へ単純に応用することはできないだろう。しかし、これらの理論が示すのは、民主的社会における移民の受け入れ、文化多元的な社会統合においては、マイノリティの選択の自由と権利保障と同時に、ホスト社会への適応 (同化) のための何らかの仕組みが必要不可欠であるという基本的な考え方である。特に、移民の子どもに関しては、教育が多様な方面で役割を果たす。

### 3. 移民統合に関連するスウェーデンの教育制度と実践

本章では、移民統合に関連するスウェーデンの教育制度と実践について、第1節では、国、自治体、施設レベルと様々な位相における制度と実践を紹介し、第2節では、それらを踏まえた上でも顕在化している課題を指摘する。

#### 3.1 移民の子どもの受け入れに関する教育制度と実践

上記に確認したように、スウェーデンへの移民はここ数十年で増加しており、「外国生まれの子ども」、または、「外国生まれの親を持つスウェーデン生まれの子ども」が人口に占め

る割合が増加している。2018 年には、スウェーデンに住む外国生まれの子どもは 196000 人、スウェーデン生まれの外国人背景を持つ子どもは 318000 人であり、合計で 514000 人の外国人の背景を持つ子どもたちがスウェーデンに居住していたという統計が出ている (Lundström 2020)。つまり、2018 年時点では、スウェーデンに居住する子どものうち、外国生まれの子どもは 9%、外国人の背景を持つスウェーデン生まれの子どもは 15%であったということになる。移民背景の子どもは、彼らの移住背景によって、「外国背景の子ども (barn med utländsk bakgrund)」、「ニューカマーの子ども (nyanlända barn)」や「同伴者のいない子ども (ensamkommande barn och ungdomar)」と呼ばれるが、居住状況に関わらず学習権が保障されている。

このように、スウェーデンに居住する全ての子どもに学習権が保障されているため、自治体は受け入れのための整備をする必要がある。この時、教育へのアクセスだけではなく、平等な教育の質の保障も目指される。自治体によってその対応は異なるが、財政的に豊かで、多くの移民・難民を受け入れている自治体、例えば首都ストックホルムや南部の都市マルメでは、ニューカマー移民の子どもに対してガイダンスを含めた編入プログラムや多言語での情報や教材が提供されている (Stockholms stads 2022)。また、2021 年 10 月 1 日から、スウェーデンに到着したすべての難民申請者に、スウェーデン社会に関する入門コースの受講が義務づけられた。目的は、難民申請手続きとスウェーデン社会の仕組みについて理解を深めてもらうこととされた (Pelling 2021)。

多言語・文化対応の中には、母語教育とスウェーデン語教育がある。これらの言語教育については、スウェーデン教育の研究者である林寛平 (2015) が詳しくその歴史的背景や利用方法について詳しく説明しているが、その実践方法は、全ての子どもの学習権保障という理念を基盤に、マイノリティの子どものニーズに応じた教育の提供であるといえる。こうした多言語・多文化の対応をするためにも、デジタルツールなど様々な資源が利用されるほか、移民・難民背景のある教職員が採用されることも少なくない。就学前教育に関しては、国外で修得された教員免許の認証も行われている (Skolverket 2021)。

上記のような多様性の尊重についての教育的取り組みがある一方で、社会としての言語・文化や価値観などの共通性の創造についても学校教育は取り組む。このことは、教育法 (2010:800) へも明記されている。具体的には、教育は、人権の尊重とスウェーデン社会が依拠する基本的な民主的価値を伝え、定着させるものとする、ということのほかにも、それらは共通の環境のもとで行われるということが記されている。学校教育が共有するスウェーデン社会の共通の価値観として、男女平等や非宗教主義などが具体的に明記されていることも興味深い (Utbildningsdepartementet 2010)。

教育法以外の普遍的価値観として、近年特に保育・教育関連領域で重視されているのが、「子どもの権利条約 (Barnkonventionen)」である。スウェーデンの子どもの権利条約は、国際連合が 1990 年 9 月に発行した子どもの権利条約 (Convention on the Rights of the Child: CRC) を採用したものであり、国内法として 2020 年に発行された (Barnombudsmannen

2021)。子どもの権利条約が発行されてからは、国内の地下鉄広告や新聞で掲示されるだけでなく、学校教育関係者に対しても理解を深めるような伝達があるなど、国内で広く周知されるような対応が取られていたようである。筆者が訪問した複数の就学前施設の職員も、現在のスウェーデンの教育実践で重要な価値・規範としてこの子どもの権利条約に言及し、その実践的対応について議論と経験を構築していた。就学前教育施設には、他の絵本とともに、『子どもの権利条約の詩集 (En pekbok om Barnkonventionen)』（Linda Plma 著）が置かれていた。

### 3.2 スウェーデンの教育が直面する課題

上記のような教育的対応が取られていてもなお、移民背景の子どもが多く参加するスウェーデンの教育についてはいくつかの課題が指摘されている。「外国人児童生徒の教育課題」として林（2015）が説明したように、一つには、移民背景の子どもの教育達成の問題がある。林（2015）は、学習到達度調査（PISA）でスウェーデンのスコア悪化の結果は、必ずしも移民背景の子どもに影響によるものではないとしつつも、非移民背景の子どもに比べて移民背景の子どもが、移民 1.5 及び 2 世に比べて移民 1 世の子どもが、よりスコアが低いことをいくつかの情報を整理することで指摘した。その要因を追究する実証研究は、その他の移民受け入れ諸国でも見られような現象、具体的には、移民背景の子どもの教育達成に親の学歴やホスト社会の言語習得が影響していることを示唆した（Bygren and Szulkin 2010; Grönqvist and Niknami 2020; Hultqvist and Lidegran 2021; Jonsson and Rudolphi 2011）。こうした教育達成の他に、進路形成に関しては、義務教育段階の学習状況や教育アスピレーションが影響することが示唆されており、その要因として分離（segregation）の影響に注目が集まっている（Bygren and Szulkin 2010; Jackson et al. 2012; Voyer 2019）。

エスニシティ・人種による居住地分離（residential segregation）や学校分離（school segregation）とも表現される分離は、スウェーデン国内の特に教育の文脈で問題となっている。居住地分離は、スウェーデンの住宅政策の影響の他、難民・難民申請者の受け入れ体制の影響が指摘されており、移民、特に非ヨーロッパ諸国からの移民がスウェーデンで高いレベルの分離に直面していることが明らかにされている（Andersson and Bråmås 2004; Malmberg et al. 2018）。学校分離は、学校間で移民背景の子どもがいる割合や大きく異なるような状況を指し、背景には学校選択制などがある。子どもの学習成績と移民背景の子どもの同級生の割合に起因する相互作用効果の影響についての調査が進んでいる一方で（Brandén et al. 2018; Bygren and Szulkin 2010）、そういった学校分離を促進するような移民と非移民家庭の学校選択が定着しつつある（Osman and Lund 2022; Voyer 2019）。

こうした分離は、教育達成の不平等だけではなく、エスニック・マイノリティの子どもたちのアイデンティティ構築や人種差別の問題とも密接に関連している。移民背景の子どもが、高い学習成績を達成しても、高い進路選択を選ばない理由として、同級生の影響があることがいくつかの研究で示されている（Brandén et al. 2018）。その背景には、居住地や学校

分離によって移民背景の子どもたちの生活が自らのエスニック・コミュニティにとどまってしまうことや、スウェーデン社会との希薄な関係から帰属意識の構築が難しいことなどが挙げられている（Lund, 2015, 2020）。人種差別の問題についても、どのように学校教育を通して取り組むことができるかについて模索が続いている（Nyrell 2022; ダールベリ 2018）。

#### 4. おわりに

スウェーデンは、移民・難民に対して制度的に平等な教育機会を保障しており、それに対しては国際的に高く評価されている。その一方で、社会統合のための課題も依然指摘される。本稿で見てきたような、スウェーデンの社会統合政策と移民の子どもの教育についての課題を包括的に見た時、ベリー（2005）のエスニック・グループ（移民）と受け入れ社会の異文化適応戦略の図式概念を援用するならば、政策は同化に対する配慮を行ってきたが、今後は分離に関する積極的な試みが求められているということが示唆される。こうした課題の解決のためには、マクロな制度的な改革以外にも、メゾ、ミクロなレベルでの教育実践による取り組みも考えられる。例えば、子どものニーズに合わせて適切な教材や支援を提供する教育実践者の公正なペダゴジーや文化的に多様な人々が共生するコミュニティ設計のうちの教育施設の役割の省察などである。また、スウェーデンの教育的価値観とそれぞれの宗教やエスニック・グループの文化・価値観との葛藤への関心もますます高まっているだろう。民主的教育のペダゴジーを発展させつつ、政策などの理念と課題が見える現場の間で教育実践者たちはどのように多文化の課題に対処しているのだろうか。この問いを筆者の今後の研究課題としたい。

#### 脚注

- 1) MIPEX は、EU 加盟国、オーストラリア、カナダ、アイスランド、日本、韓国、ニュージーランド、ノルウェー、スイス、トルコ、米国などを対象に、各国の移民関連政策を、労働市場の流動性、家族呼び寄せ、教育、健康、政治参加、永住権、国籍取得、反差別の 8 つの部門から評価する（Solano and Huddleston 2020; 丸山 2009）。
- 2) 国連経済社会局人口部（UN, DENSA）が用いる国際移民（international migrant）の定義では、移民は「通常の居住国から異なる国に移住し、1 年以上居住している人」（UN, Department of Economic and Social Affairs, Statistics Division 1998）とされる。ただし、移民は移動のプロセスにある人々のことであり、広い意味で使われる。
- 3) 難民に関しては、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）が定義する、「人種、宗教、国籍、特定の社会集団のメンバーシップ、または政治的意見を理由に迫害されるという十分な根拠のある恐れのために、出身国に戻るできない、または帰国したくない個人」（UNHCR 2009）が一般的な定義である。難民申請者（または、亡命者）とは、「国際的な

保護を求め、正式な難民の地位の主張がまだ決定されていない個人」(UNHCR 2009)と定義されている。

4) スウェーデンにおける移民・難民に関連した政策や法制度は、1969年に設立された Statens invandrarverk (Swedish Immigration Board) 以来いくつかの変遷を経て、2000年以降は Migrationsverket (Swedish Migration Agency) が担当している。

5) スウェーデン国内の一般的概念として、「外国人」を意味する“utlänning”は差別的な意味合いが含まれるようになったことから、近年は差別的意味合いを排除した「外国生まれの人」を意味する“invandrare”が使用される(清水 2015)。「ニューカマー」を意味する“nyanlända”も、特に教育の文脈では頻出の表現である。

6) 2020年時点で、外国生まれの移民の国籍別上位国はフィンランド、イラク、イラン、ポーランド、シリアである(Statistics Sweden 2021)。

7) 特別支援教育・学校庁(Specialpedagogiska skolmyndigheten)は、主に聴覚障害、または、難聴のある生徒を対象とする特別学校(specialskola)や発達障がいや後天的脳損傷によって知識要件を満たしていないために小学校に通えない生徒を対象とする特別支援学校(särskolan/ grundsärskolan)を管轄する。学校施設の運営だけではなく、就学前学校・課外教育でも特別支援カリキュラムを提供したり、小学校では統合・インクルーシブクラスを行っていることから、障害に関わらず全ての人が教育を受けられるような教育環境の設計に包括的に携わっている行政機関である(Specialpedagogiska skolmyndigheten 2019)。

8) サーミ人は、最北端の北欧諸国及びロシアの土地に住む先住民であり、近代には迫害と同化政策を受けた。スウェーデンには20,000~40,000人のサーミ人が住んでいると推定されている(Minority Rights Group 2015)。スウェーデンの公教育に位置付けられるサーミ人学校は、サーミ人コミュニティと先住民の規範、価値観、伝統、文化遺産を生徒に伝えることを目的とする(Blind 2017; Skolverket n.d.)。

## 6. 謝辞

本稿は、令和3年度の日本学術振興会若手研究者海外挑戦プログラム、及び、令和4年度のバリアフリー教育開発研究センター若手研究者育成プロジェクトの助成を受けた研究成果の一部である。

## 7. 引用文献

- Andersson, Roger, and Åsa Bråmås, 2004, “Selective Migration in Swedish Distressed Neighbourhoods: Can Area-Based Urban Policies Counteract Segregation Processes?” *Housing Studies*, 19(4): 517–39.
- Barnombudsmannen, 2021, “Barnkonventionen,” (Retrieved February 22, 2021, <https://www.barnombudsmannen.se/barnkonventionen/>).
- Berry, John W, 2005, “Acculturation: Living Successfully in Two Cultures,” *International*



*Journal of Intercultural Relations: IJIR*, 29: 697–712.

- Berry, John W., and Colette Sabatier, 2010, “Acculturation, Discrimination, and Adaptation among Second Generation Immigrant Youth in Montreal and Paris,” *International Journal of Intercultural Relations: IJIR*, 34 (3): 191–207.
- Blind, Henrik, 2017, “Sameskolstyrelsens vision,” Sameskolstyrelsen, (Retrieved april 2023, <https://sameskolstyrelsen.se/skola-utbildning/sameskolstyrelsens-vision/>).
- Borevi, Karin, 2014, “Multiculturalism and Welfare State Integration: Swedish Model Path Dependency,” *Identities*, 21 (6): 708–23.
- Brandén, Maria, Gunn Elisabeth Birkelund, and Ryszard Szulkin, 2018, “Ethnic Composition of Schools and Students’ Educational Outcomes: Evidence from Sweden,” *The International Migration Review*, 53 (1): 1–32.
- Brochmann, Grete, Anniken Hagelund, Karin Borevi, Heidi Vad Jønsson, and Klaus Petersen, 2012, *Immigration Policy and the Scandinavian Welfare State 1945-2010, Migration, Diasporas and Citizenship Series*, Palgrave macmillan.
- Bygren, Magnus, and Ryszard Szulkin, 2010, “Ethnic Environment During Childhood and the Educational Attainment of Immigrant Children in Sweden,” *Social Forces; a Scientific Medium of Social Study and Interpretation*, 88 (3): 1305–29.
- Fischer, Mary J, 2010, “Immigrant Educational Outcomes in New Destinations: An Exploration of High School Attrition,” *Social Science Research*, 39 (4): 627–41.
- Grönqvist, Hans, and Susan Niknami, 2020, “The Performance Gap between Native and Foreign-Born Pupils,” *Center for Business and Policy Studies: SNS*.
- Haller, William, Alejandro Portes, and Scott M. Lynch, 2011, “Dreams Fulfilled and Shattered: Determinants of Segmented Assimilation in the Second Generation,” *Social Forces; a Scientific Medium of Social Study and Interpretation*, 89 (3): 733–62.
- Hirschman, Charles, 2001, “The Educational Enrollment of Immigrant Youth: A Test of the Segmented-Assimilation Hypothesis,” *Demography*, 38 (3): 317–36.
- Hultqvist, Elisabeth, and Ida Lidegran, 2021, “The Use of ‘Cultural Capital’ in Sociology of Education in Sweden,” *International Studies in Sociology of Education*, 30 (3): 349–56.
- Jackson, Michelle, Jan O. Jonsson, and Frida Rudolphi, 2012, “Ethnic Inequality in Choice-Driven Education Systems: A Longitudinal Study of Performance and Choice in England and Sweden,” *Sociology of Education*, 85 (2): 158–78.
- Jonsson, Jan O., and Frida Rudolphi, 2011, “Weak Performance—Strong Determination: School Achievement and Educational Choice among Children of Immigrants in Sweden,” *European Sociological Review*, 27 (4): 487–508.
- Lund, Stefan, 2015, *School Choice, Ethnic Divisions, and Symbolic Boundaries*, Palgrave Pivot.

- , 2020, *Immigrant Incorporation, Education, and the Boundaries of Belonging*, Palgrave Macmillan, Cham.
- Lundström, Karin, 2020, "Living Conditions for Children with a Foreign Background," *Statistics Sweden*.
- Malmberg, Bo, Eva K, Andersson, Michael M, Nielsen, and Karen Haandrikman, 2018, "Residential Segregation of European and Non-European Migrants in Sweden: 1990–2012," *European Journal of Population = Revue Européenne de Démographie*, 34 (2): 169–93.
- Minority Rights Group, 2015, "Sami," Minority Rights Group, (Retrieved April 28, 2023, <https://minorityrights.org/minorities/sami-3/>).
- Nyrell, Christina, 2022, "Marco Helles: – Viktigt att systematisera det antirasistiska förhållningssättet i förskola och skola," Skolverket, (Retrieved April 5, 2022, <https://www.skolverket.se/skolutveckling/inspiration-och-stod-i-arbetet/inspiration-och-reportage/marco-helles---viktigt-att-systematisera-det-antirasistiska-forhallningssattet-i-forskola-och-skola>).
- Osman, Ali, and Stefan Lund, 2022, "Local School Desegregation Practices in Sweden," *Education Sciences*, 12 (8).
- Pelling, Lisa, 2021, "Sweden: Compulsory Introduction Course for All Asylum Seekers," *European Website on Integration*, (Retrieved April 28, 2023, [https://ec.europa.eu/migrant-integration/news/sweden-compulsory-introduction-course-all-asylum-seekers\\_en](https://ec.europa.eu/migrant-integration/news/sweden-compulsory-introduction-course-all-asylum-seekers_en)).
- Portes, Alejandro, and Ruben G. Rumbaut, 2001, *Legacies: The Story of the Immigrant Second Generation*, University of California Press.
- Schachner, Maja K., Jia He, Boris Heizmann, and Fons J. R. Van de Vijver, 2017, "Acculturation and School Adjustment of Immigrant Youth in Six European Countries: Findings from the Programme for International Student Assessment (PISA)," *Frontiers in Psychology*, 8 (May): 649.
- Skolverket, 2021, "Requirements for certification," Skolverket, (Retrieved November 5, 2021, <https://www.skolverket.se/regler-och-ansvar/lararlegitimation-och-forskollarlegitimation/certification-for-teachers-and-preschool-teachers-with-a-foreign-teaching-degree/requirements-for-certification>).
- , n.d, "Läroplan för sameskolan samt för förskoleklassen och fritidshemmet i vissa fall," (Retrieved April 26, 2023, <https://www.skolverket.se/undervisning/sameskolan/laroplan-och-kursplaner-i-sameskolan/laroplan-lsam22-for-sameskolan-samt-for-forskoleklassen-och-fritidshemmet-i-vissa-fall>).

- Soininen, Maritta, 1999, "The 'Swedish Model' as an Institutional Framework for Immigrant Membership Rights," *Journal of Ethnic and Migration Studies*, 25 (4): 685–702.
- Solano, Giacomo, and Thomas Huddleston, 2020, "Migrant Integration Policy Index," 2020, (Retrieved April 28, 2023, <https://www.mipex.eu/>).
- Specialpedagogiska skolmyndigheten, 2019, "Our mission and role," (Retrieved November 13, 2019. <https://www.spsm.se/om-oss/other-languages/english/our-mission/>).
- Statistics Sweden, 2021, "Utrikes födda i Sverige," (Retrieved April 28, 2023, <https://www.scb.se/hitta-statistik/sverige-i-siffror/manniskorna-i-sverige/utrikes-fodda-i-sverige/>).
- , 2023, "Population in Sweden by Country/Region of Birth, Citizenship and Swedish/Foreign Background," (Retrieved April 28, 2023, <https://www.scb.se/en/finding-statistics/statistics-by-subject-area/population/population-composition/population-statistics/pong/tables-and-graphs/foreign-born-citizenship-and-foreignswedish-background/population-in-sweden-by-countryregion-of-birth-citizenship-and-swedishforeign-background-31-december-2022/>).
- Stockholms stads, 2022, "Plats i förskola och skola för nyanlända," Stockholms stads, (Retrieved March 28, 2022, <https://socialtstod.stockholm/nyanlanda/forskola-och-skola/>).
- Swedish Migration Agency, 2023, "Asylum," (Retrieved April 28, 2023, <https://www.migrationsverket.se/English/About-the-Migration-Agency/Statistics/Asylum.html>).
- UN, Department of Economic and Social Affairs, Statistics Division, 1998, Recommendations on Statistics of International Migration, Revision 1.
- UNHCR, 2009, "2009 Global Trends: Refugees, Asylum-Seekers, Returnees, Internally Displaced and Stateless Persons," UNHCR - The UN Refugee Agency, (Retrieved April 28, 2023, <https://www.unhcr.org/media/2009-global-trends-refugees-asylum-seekers-returnees-internally-displaced-and-stateless>).
- Utbildningsdepartementet, 2010, "Skollag (2010:800)," Sveriges Riksdag, (Retrieved June 23, 2010, [https://www.riksdagen.se/sv/dokument-lagar/dokument/svensk-forfattningssamling/skollag-2010800\\_sfs-2010-800](https://www.riksdagen.se/sv/dokument-lagar/dokument/svensk-forfattningssamling/skollag-2010800_sfs-2010-800)).
- Voyer, Andrea, 2019, "'If the Students Don't Come, or If They Don't Finish, We Don't Get the Money,' Principals, Immigration, and the Organisational Logic of School Choice in Sweden," *Ethnography and Education* 14 (4): 448–64.
- グニラ・ダールベリ, 2018, 「幼児教育、スウェーデンの事例：すべての子どものための包括的で体系的・ホリスティックな幼児教育構築の物語」『幼児教育史研究』13: 16–28.

- グレーテ・ブロックマン, 2017, 「移民問題：緊張した関係性」 クラウス・ペーテーセン／セタイン・クーンレ／パウリ・ケットネン編『北欧福祉国家は持続可能か：多元性と政策協調のゆくえ』 ミネルヴァ書房, 328-350.
- 林寛平, 2015, 「外国人児童生徒の教育課題：スウェーデンにおける外国人児童生徒の教育課題」『比較教育学研究』 51: 26-36.
- 是川夕, 2018, 「移民第二世代の教育達成に見る階層的地位の世代間変動：高校在学率に注目した分析」『人口学研究』 54: 19-42.
- 丸山英樹, 2009, 「欧州における移民の社会統合と教育政策：『移民統合政策指標』と『移民の子の統合』 報告書から見るドイツとスウェーデン」『国立教育政策研究所紀要』 138: 223-38.
- 村井忠政, 2015, 「現代アメリカ新来移民第2世代の同化をめぐる研究：ポルテスらの『分節化された同化』モデルの検討を中心に」『多文化共生研究年報』 12: 1-7.
- 清水由賀, 2015, 「スウェーデンにおける難民・移民受け入れ政策：継続性に着目して」『社会学研論集』 26: 47-62.